

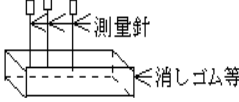
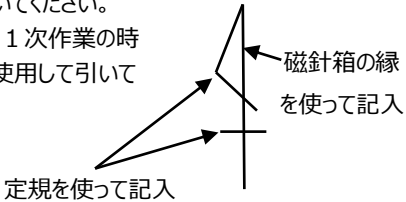
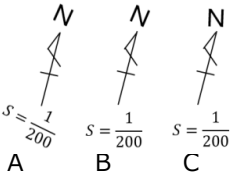
第77回日本学校農業クラブ全国大会令和8年度南四国大会平板測量競技会 事前Q & A

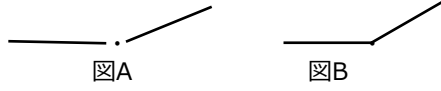
※表中左端の1、2、3の数字は関係する作業を表しています。(踏査、器具点検に関することは「1」に含みます)

※表中のその他は第1次作業、第2次作業、第3次作業以外に関することを表しています。

作業別			NO	質 問	回 答
1	2	3	1	ストップウォッチ付き腕時計の使用又はストップウォッチを競技中に使用してもよろしいですか。また、最初に「ピッ」という音がしますが良いですか。	実施要項12競技実施要領の(3)選手に対する一般注意事項に明記しましたが、ストップウォッチの使用を認めます。ただし、競技時間についての異議は認めません。 なお、全ての腕時計の持ち込み及び使用を認めません。
1	2	3	2	図紙、オフセット用紙、面積計算簿の種類規格等は通知されますか。	用紙は、天候に関わらず以下のものです。 図紙・・・コクヨ 耐水強化紙 品番：LBP-WP130 (A3版) オフセット用紙・・・コクヨ 耐水強化紙 品番：LBP-WP110 (A4版) 面積計算簿・計算用紙・・・上質紙 (A4版)
1	2	3	3	第1次作業において、踏査から競技開始までの時間はどれくらいですか。また、第2次作業、第3次作業の準備時間はどれくらいですか。	すべてのチームが作業準備を整えたことを確認してから競技を開始します。準備の遅いチームへ、アナウンスで促します。
1	2	3	4	踏査及び作業中にメモをとり、その後の作業でメモを見ても良いですか。	12競技実施要領の(3)選手に対する一般注意事項に明記しましたが、 <u>メモ用紙の使用は認めません</u> 。従って、 <u>踏査中にメモをとってはいいけません</u> 。作業中に図面やオフセット野帳にメモした場合は、終了合図前に必ず消してください。
1	2	3	5	字消し板の使用は可能ですか。	<u>使用できません</u> 。器具点検の際に持ち込んだ場合は、競技終了まで預かります。
1	2	3	6	三角スケールで線を引いても良いですか。	三角スケールは寸法を測るための道具であるため、線を引く場合は定規を使用してください。
1	2	3	7	三角スケールは1組とありますが、副尺(オフセット尺)を準備する必要がありますか。	使用しないのであれば器具点検に提出する必要はありません。(準備しなくても良いです。)
1	2	3	8	市販の方眼目盛入りの定規を使用しても良いですか。	良いです。
1	2	3	9	使用器械器具等の小刀は、切り出しナイフやカッターナイフ等でも良いですか。	良いです。
1	2	3	10	市販品で最初から指先がカットされている手袋を使用する場合、加工と見なされますか。	加工とは見なしません。
1	2	3	11	平板や三脚などに、購入時の日付や印がありますが、使用できますか。	器具点検においてやむを得ないと判断できるものは使用を認めます。
1	2	3	12	目印となる位置でなければ、器具等に学校名のシールを貼ってもかまいませんか。	目印となるかどうか判定ができないため、新たにシールを貼らないでください。貼って良いのは、事前に送付する平板用ラベルシールのみです。
1	2	3	13	使用器具が故障又は破損した場合、その時点で失格となりますか。	失格にはなりません。そのまま競技を続けるかどうかは選手自身で判断してください。器具類は事前に確認をし、故障や破損の心配ないものを使用してください。
1	2	3	14	使用器具が故障または破損した場合に備え、予備の器具を持ち込んでも良いですか。	競技には器具点検を受けた器具のみを使用することができます。また、器具点検時においては、全国大会実施基準で指定された数量の器具のみ、持ち込めます。
1	2	3	15	器具点検時に器具等の出し忘れをした場合、減点の対象となりますか。	<u>減点の対象となります</u> 。全国大会実施基準で指定された数量の器具を準備してください。
1	2	3	16	器具点検時に全国大会実施基準に記載された器械器具等が準備できていない場合、減点の対象となりますか。	<u>減点の対象となります</u> 。事務局から必要な器具を貸し出した場合と器械器具等を取りに戻った場合は、入賞の対象から除外します。
1	2	3	17	外業会場または内業会場に移動後、競技に使用する器械器具等を取りに戻った場合、減点の対象となりますか。	<u>減点の対象となります</u> 。競技の進行を妨げる行為となりますので、各作業に必要な器械器具等を忘れないように注意してください。

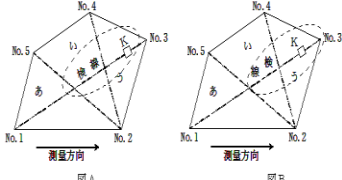
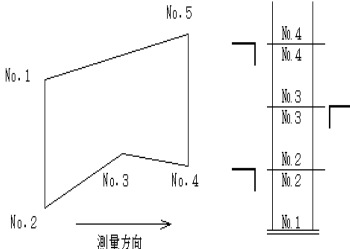
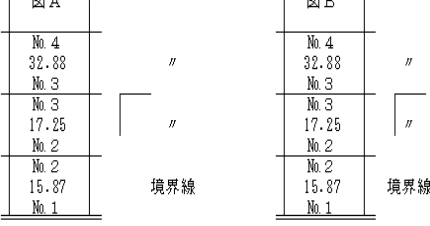
1	2	3	18	読みにくい数字を書いた場合、優劣に影響しますか。	同点の場合、第3次作業仕上り図面で順位決定を行います。程度により判断されます。
1	2	3	19	実施基準のD採点基準（d）作業動作・作業態度に、「不良なものはその程度により総点より減点する。」とありますが、どのようなものが減点の対象ですか。	不良作業動作については、この事前Q & Aの回答並びに12競技実施要領の(2)指示事項及び(3)選手に対する一般注意事項の内容からはずれるものになります。
1	2	3	20	審査員の持っている審査用紙を公開しますか。	公開はしません。
1	2	3	21	競技開始後大雨となり、2回次以降の作業が困難になった場合どうなりますか。	1回次競技開始後の競技変更はしません。各チームで雨具・着替え等を準備してください。
1	2	3	22	晴天時競技を実施中、突然落雷のおそれが生じた場合は中断すると思われます。その場合の再開は、中断前の状態からか、競技のやり直しのどちらになりますか。	審査長の判断により決定します。
		その他	23	車酔いをする生徒がいます。シャトルバスの座席は決まっていますか。	指定はありません。その場で申し出ていただくことで、可能な範囲で配慮をします。
1			24	平板移動器は半球面式や整準ネジ式等を使用して良いですか。	平板移動器及び三脚の種類に規定はありません。
1			25	27cmのワイドアリダードを使用して良いですか。また、プリズム付アリダードを使用しても良いですか。	ワイドアリダードは使用可能ですが、プリズム付アリダードや望遠鏡付アリダードは <u>使用できません</u> 。全国大会実施基準では「普通アリダード」を使用器具として挙げています。普通アリダードとは、前視準板の中に視準糸があり、前視準板と後視準板と定規で構成されたものを指します。
1			26	アリダードに付属する定規に刻まれている縮尺について、任意の縮尺でも良いですか。それとも1/200でないと減点の対象となりますか。	1/200以外の任意の縮尺でも減点の対象としません。ただし、アリダードの定規で図上の距離測定は <u>認めません</u> 。
1			27	図上での距離測定において、三角スケールの代わりにアリダードに付属する定規を利用しても良いですか。	図上の距離測定にアリダードの定規を利用した場合、 <u>減点の対象となります</u> 。
1			28	アリダードの定規縁で線を引いても良いですか。	良いです。
1			29	第1次作業で線引きする際、三角定規、直定規のどちらを使用しても良いですか。	良いです。
1			30	平板の据え付けにおいて、三脚の踏み込みがついていないため踏み込みができません。手で三脚を押し込み固定しても良いですか。また、三脚は3本とも固定しなければ減点の対象となりますか。	手で三脚を押して固定してください。観測中は、三脚が動かないように3本とも固定してください。固定しない場合は、 <u>減点の対象となります</u> 。
1			31	平板の据え付け時に、平板の高さを低くし、膝をつきながら測定するのは減点の対象となりますか。	減点の対象としません。適切な高さに据え付けるようにしてください。
1			32	作業中は、三脚の脚を完全に伸ばしていないと減点の対象となりますか。	減点の対象としません。適切な高さに据え付けるようにしてください。
1			33	三脚に持ち運ぶためのストラップがついています。競技中は外した状態で使用しなければなりませんか。	減点の対象としません。外す、外さないは、チームの判断に任せます。
1			34	針先0.2 mmの測量針が手に入りません。まち針を加工して、0.2 mmに近づけたものを使用して良いですか。	やむを得ない状況なので、測量針に関しては、まち針の代用とその加工を認めます。
1			35	第1次作業開始時に、測量針を図紙上以外の平板上（右上のスミ付近）に打ってある状態ならば減点の対象になりませんか。	減点の対象としません。

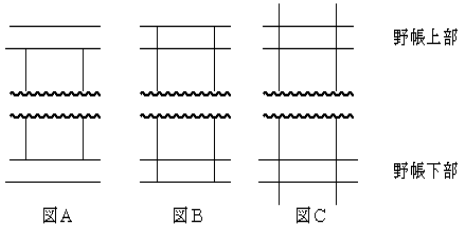
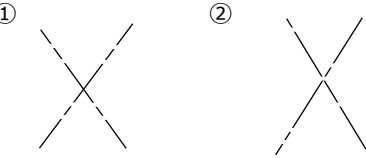
1			第1次作業中に測量針を持ち運ぶためと紛失防止のため、図のように測量針を消しゴムに刺していても良いですか。また、それができない場合は、測量針を入れる小さなケースを平板上において作業をしても良いですか。その場合、器具点検でその小ケースの点検を受ける必要がありますか。 	まず、消しゴムを目的以外のことに利用することはやめてください。もし、その行為をした場合、<u>減点の対象となります</u>。また、小ケースの使用に関しては、測量針の紛失防止ということで認めます。競技に使用する器械器具等は全て器具点検を受けることになります。器具点検で点検を受けてください。
1			37 測量針が折れた場合、図板から抜くために小型のベンチ（ラジオベンチ）を使用しても良いですか。	使用は認めません。全国大会実施基準及び南四国大会実施要領内の競技実施要領を参考ください。
1			38 測量針が折れ、図板から抜くことができない場合、どのように対処したら良いですか。	審査員、補助員から助言はできません。競技者で対応してください。
1			39 作業中に測量針が折れた時や落としたときは減点の対象となりますか。	測量針の破損については、減点の対象としません。しかし、地面に落下した場合は、<u>減点の対象となります</u>。
1			40 磁針器は平板に固定しておかなければなりませんか。	固定をせずに、使用後は片付けてください。
1			41 方位は北を上にして、図郭線の短辺と平行でなければなりませんか。	図面の右上に、北をほぼ上方にして書けば平行でなくてもかまいません。また、図面の置き方は指定されていないので、短辺が上下になってもかまいません。
1			42 方位は、いつどのように引けば良いですか。	南北を示す縦線だけは、最初に据え付けたNo.1の測点において磁針箱で引いてください。 残りの線は、第1次作業の時間内に定規を使用して引いてください。 
1			43 北はほぼ上方で良いとのことですが、ほぼ上方とは約何度(何目盛)ですか。また、縮尺とNの記載はどれが正しいですか。 	方位記号の傾きについては、全国大会実施基準のとおりが望ましいです。なお、著しい場合を除けば、入賞判断の際の参考にします。縮尺とNの記載はBもしくはCとしてください。 
1			44 方位の記載について、磁針箱の縁を用いて南北を示す縦線を引く作業は、3人のうち誰が行っても良いですか。	良いです。
1			45 平板の標定において、三脚頭部の移心回転装置に付属する整準固定ねじや平板取り付けねじの締め付けは、選手3人のうち誰が行っても良いですか。	良いです。
1			46 平板の標定において、補助者が三脚の脚を押さえる行為は減点の対象となりますか。	減点の対象としません。
1			47 三脚固定の作業中に求心器と下げ振りを使用しますが、平板上にアリダードや磁針箱などを置いたまま作業した場合は減点の対象となりますか。	減点の対象としません。
1			48 標定の際に、図面上の点と地上の測点が合わなかった場合、もう一度標定するときに平板上に器具を置いた状態で再度標定を行っても良いですか。	同一の測点であれば、かまいません。
1			49 測距の際に、三脚を閉じずに平板上に器具等を載せた状態のままで、1～2m移動させても良いですか。	良いです。

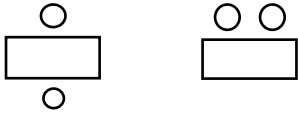
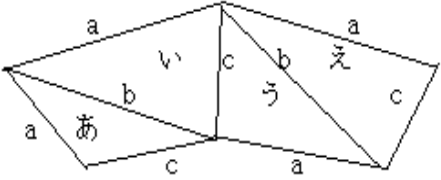
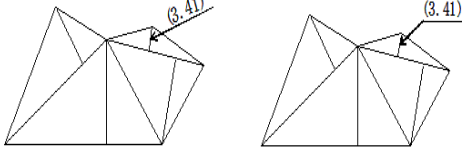
1		50	トランシット用の下げ振りを使用しても良いですか。	平板測量以外の下げ振りの使用は認めません。もし器具点検の際に持ち込んだ場合は <u>減点の上、競技終了まで預かります。</u>
1		51	標定の際に、求心器が三脚等に接触してしまう、また下げ振りが測点に当たった場合、減点の対象となりますか。	減点の対象としません。
1		52	求心や距離測定の際に腰を下ろしますが、その際、下げ振りの糸が地面につくと減点の対象となりますか。	減点の対象としませんが、平板上の器具・筆記用具等が落ちたと判断された場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
1		53	測点間の移動の際、三脚を閉じる必要がありますか。また、三脚頭部のネジは緩めなければなりませんか。	測点間の移動の際は三脚を閉じて移動してください。ネジは競技者の判断でよいです。
1		54	補助者やポール手は、器具等を手に持ったまま走って移動しても良いですか。	良いです。ただし、ポケット等にしまえる大きさの器具は、なるべくしまってから移動してください。
1		55	第1次作業において、下げ振りを求心器につるしたまま、手に持って移動しても良いですか。	減点の対象としませんが、道具を地面に落とした場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
1		56	第1次作業において、下げ振りを首にかけ、おもりを胸ポケットに入れるなどして移動して良いですか。	減点の対象としませんが、地面に落ちたと判断された場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
1		57	第1次作業において、巻尺の先送りも可能ですか。 例) No.1に平板を据え付けている際、No.1～No.2の測距後、No.2～No.3の測点間に巻尺を伸ばして置いておく。	巻尺を伸ばして先に置いても良いですが、測距は平板が測点に移動してから行ってください。また、測距を行えるのは視準するその測線のみです。
1		58	平板をNo.2に移動後、据え付け(整準・求心・定位)が完了する前にNo.2～No.3の測距を行っても良いですか。	移動後の据え付け作業中であれば、かまいません。
1		59	第1次作業での測距は、平板が移動してとっていますが、それは平板を完全に据えてからか、それとも据え付けている途中のどちらでも良いですか。	どちらでも良いです。
1		60	三脚をまったく動作は減点の対象となりますか。また、測点をまたいだ場合はどうですか。	判断が難しいため減点対象とはしません。ただし、測定中に三脚や測点を蹴ったりした場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
1		61	各測点における前視の視準にて、測点をプロットする際に方向線(チェック線)を引かず、測量針を図紙上に刺して距離測定を行い測点の位置を決定すると、図紙上に針の跡が残るが、減点の対象となりますか。	方向線を定める際に残る針の穴は、減点としません。
1		62	第1次作業時のNo.3以降の点において、No.1にポールを立てアリダードを使用せずに目視による誤差の確認をしても良いですか。	最終測点以外の測点において、前・後視以外の測点を目視により確認をした場合は、 <u>減点の対象となります。</u> なお、どの測点においても、アリダードを用いて視準できるのは、前視と後視のみです。
1		63	最終測点で閉合誤差を生じた際、前視・後視以外の点について、アリダードを使用せずに目視で確認しても良いですか。	最終測点に限り、前後の測点以外の目視による確認は認めます。ただし、アリダードで前・後視以外の測点を視準した場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
1		64	第1次作業において、測点に○印をつけても良いですか。	作業終了時に測点に○印をつけるなど、記入事項以外の記載があれば <u>減点の対象となります。</u>
1		65	第1次作業終了時の境界線の引き方は、どちらが正しいですか。 	第1次作業終了時はどちらでも良いですが、第3次作業の仕上がり図面では、図Bのように結線させてください。
1		66	第1次作業終了時の境界線が測点よりはみ出している場合は、減点の対象になりますか。また、はみ出しても良い場合は、どのくらいまで(例: 測線の倍以上)が認められる範囲になりますか。	第1次作業終了時では、減点の対象にはなりませんが、第3次作業の仕上がり図面では、閉合されていない場合は <u>減点の対象となります。</u>

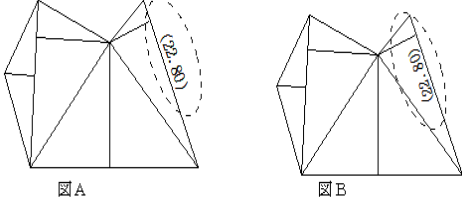
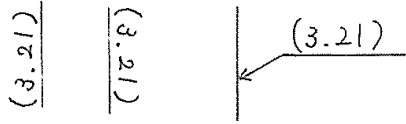
1		67	全国大会実施基準、C競技方法-(b)-(1)-⑧に、「第1次作業時の図面には、…測点番号…を記入する。」とありますが、第1次作業において閉合誤差が生じた際に、No.1の位置を示す点の測点番号は、No.1と記入すればよいですか。	閉合誤差が生じた際には、選手が測点の区別がつくように、「No.1'」と測点番号に「'（ダッシュ）」を付けて記入してもよいです。「No.1'」は記入しなくても減点の対象とはなりません。
1		68	第1次作業終了時における測点番号の記載は、次のどれでもよろしいですか。 1 No. 1 No. 1 No. 1 A B C D	第1次作業ではどれでも良いです。ただし、オフセット野帳及び第3次作業の仕上がり図面では、Bの「No. 1」と表記してください。「.（ピリオド）」で記載してください。
1		69	第1次作業終了時の出場校番号の記入は、次のどれでもよろしいですか。 出場校番号 2 出場校番号 2 2 A B C	どれでも良いです。
1		70	第1次作業の終了合図時は、測点上に針を立てたままで良いですか。良い場合、最終測点とNo.1の2本なのか、それとも他の点にも立てておいて良いですか。	測量針をどこに立てていても良いです。また、事前に器具点検を受けている針のうち、何本立てておいてもかまいません。
1		71	最終測点において、第1次作業の終了合図の前後に、平板を動かしてしまった場合どうなりますか。	<u>減点の対象となります</u> 。審査員の点検を受けますので、再度据え付け直してもらいます。なお、この行為が第1次作業の終了合図の前であった場合は、作業時間に含みます。終了合図後であった場合は、作業時間に含みません。
1		72	第1次作業において、閉合誤差が10cm未満の場合は、終点と始点を結線しても良いですか。	減点の対象としませんが、閉合誤差が10cm未満かどうかについては、審査員の点検により判断します。
1		73	第1次作業の終了合図を行う前に、第2次作業に向けて対角線の位置やおおよその長さを確認すると減点になりますか。また、確認の際に三角スケールを使用しても良いですか。	第2次作業・第3次作業の手順に関することは減点の対象としませんが、三角スケールを使って長さを確認する行為は <u>減点の対象となります</u> 。
1	2	74	測点を示す杭はどのようなものでできていますか。また、杭の高さはどのくらいですか。 	5cm×5cm×9cmの木製の杭です。測点の中心は、コノエネイルで示し、杭は競技場毎に色分けしてあります。また、杭を固定するために杭の角に穴を開けて、コノエネイルとは異なるアンカー（鉄の棒）で固定しているため、杭の角が一カ所低くなっています。
1	2	75	ポールは、器具点検の時から第2次作業の終わりまで、1本のみを持ち込んで作業してもよろしいですか。	実施基準のとおり、器具点検時には2本用意しなければなりませんが、作業に使用する数は競技者の判断でかまいません。
1	2	76	ポール2本のうち、使用しない1本をサークル内に置いたままにしておき、使用したポール1本のみを持って最終測点で作業終了の合図をしても良いですか。	良いです。作業で使用した器具のみを持って終了の合図をしてください。
1	2	77	ポールや巻尺等の器具を各測点付近に置いて移動しても良いですか。	良いです。ただし、作業終了時に使用した器具を置き忘れた場合は <u>減点の対象となります</u> 。
1	2	78	3倍速、4倍速、5倍速の巻尺の使用は可能ですか。	可能です。
1	2	79	全国大会実施基準C競技方法-(注2)に、「辺長の測定は2回以上行ってもよい。」との記載がありますが、その解釈として、辺長測定は1回のみでも良いですか。	良いです。
1	2	80	測距の際に巻尺がたわみ、一度でも地面に接触したら減点の対象となりますか。	地面に接触しても引きづらなければ、減点の対象としません。
1	2	81	測距の際に、手や巻尺などが測点に触れた（あたった）場合は減点になりますか。	減点の対象としませんが、測点が動いてしまった場合、 <u>減点の対象となります</u> 。杭はアンカー等で固定されていますが、動きやすいので測点になるべく触れないように注意してください。

1	2	82	第1次作業、第2次作業の測距の際に、巻尺の0点は先でも後でもよろしいですか。	第1次作業では0点を先（未知点側）にしてください。第2次作業ではどちらでも良いです。
1	2	83	第1次作業、第2次作業において、風により巻尺が他の競技場に入ってしまった場合、減点となりますか。	<u>減点の対象となります。</u>
1	2	84	第1次作業、第2次作業で、測点ごとに巻尺を巻き取らず、地面を引きずらないように2人で巻尺を引っ張りあって、次の測線に移動しても良いですか。	巻尺は必ず前手と後手の距離が5m程度になるまで巻き取り又はたぐり寄せ、引きずらないように移動してください。30mを超える測定の場合も同様です。
1	2	85	第1次作業、第2次作業で巻尺を巻き取る（たぐる）際、地面に巻尺が接した状態で、引きずらないようにして5m以下まで巻き取れば減点になりませんか。	巻尺を地面に接したままでも、引きずらないように巻き取れば減点の対象となりません。
1	2	86	第1次作業、第2次作業の測距において、1測長（30m）を超えていなくても中間点を設けても良いですか。	良いです。
1	2	87	巻尺は30mを少し超えていても計測可能なのですが、測線がわずかでも30mを超えていれば、1測長以上と判断し、中間点を設置しないといけませんか。	必ず1測長以上と判断して、測距用ピン等により中間点を設置して計測してください。
1	2	88	中間点を設ける場合、測距用ピンを寝かせて置いても減点となりませんか。また、測距用ピンが地面に刺さりにくく、倒れてしまった場合は減点となりますか。	どちらの場合も減点の対象となりません。ただし、測距の際は必ずピンを立てて測定してください。また、意図せずにピンが倒れた場合は、再度見直し作業を行ってください。
1	2	89	1測長（30m）以上の測定をする場合、中間点にいる者が測距用ピン1本で方向を定め、巻尺を合わせたあと、きりの良い所に測距用ピンを移動しても良いですか。	一度設置した測距用ピンをきりの良い目盛へ移動する場合は、必ず先（未知点側）の測点にポールを立てた状態で、見直し作業を行ってください。
1	2	90	中間点にいるものが測距用ピンを2本持ち、1本目で方向を定めて地面に刺し、2本目を1本目に沿わせて、きりのよいところへ置く場合、2本目も見直し作業は必要ですか。	先（未知点側）の測点にポールを立てた状態で、1・2本目ともに見直し確認を行えば減点となりません。（2次作業の場合は、Q&A114の図を参照）
1	2	91	巻尺をまたぐと減点の対象となりますか。	減点の対象となりませんが、測距中に巻尺を踏んだり蹴ったりした場合は、 <u>減点の対象となります。</u>
	2	92	見取図板（野帳用下敷）を首から下げて吊るせるように、紐を付ける加工はしても良いですか。	良いです。
	2	93	第2次作業のスタート前に、サークル内で見取図板の上に定規等を置いていても良いですか。	スタートまでに何も記入しなければ良いです。
	2	94	オフセット野帳の「測量方向」の書き方は、No.1～No.2に平行になるように書くのですか。それとも用紙の下辺に平行になるように書くのですか。	用紙の下辺にほぼ平行になるように書いてください。
	2	95	オフセット野帳の略図は、北を上にして書くのですか。それとも、方位に関係なくNo.1～No.2が用紙の下辺に平行になるように書くのですか。	略図ですので、形がわかればどの向きでもよろしいです。
	2	96	第2次作業時の略図をフリーハンドで書いた時に境界線と対角線等が交わっていないと減点になりますか。	フリーハンドでもかまいませんが、なるべく全国大会実施基準どおりに仕上げてください。
	2	97	オフセット野帳内の「縦線2本」の長さは、大会前に教えていただけるでしょうか。	大会前には示しませんが、大会当日、使用する測点、オフセット野帳、面積計算簿等を展示しますので、そちらで確認してください。
	2	98	オフセット野帳内の「縦線2本」の長さを自分たちで継ぎ足しても良いですか。	継ぎ足しはしないでください。もし、継ぎ足した場合は <u>減点の対象となります。</u>
	2	99	オフセット野帳で横線が2本の縦線よりはみ出して記入されていないと減点の対象となりますか。	縦線よりはみ出していなければ、 <u>減点の対象となります。</u>

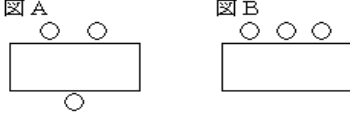
2	100	オフセット野帳の境界線、対角線、検線の間隔が均等でなくバラバラの場合は減点になりますか。	減点の対象となりません。
2	101	オフセット野帳において、No. 1～No. 2の境界線を野帳の一番下には書かなくてはなりません。また、対角線の順はどうですか。	野帳は境界線、対角線、検線の順で下から書いてください。境界線はNo. 1～No. 2から書き、対角線の順序は実施基準どおりに仕上げてください。
2	102	第2次作業において、例えば3本の対角線が、No. 2～No. 5、No. 2～No. 6、No. 3～No. 5であった時、オフセット野帳に記載する順序は、下から順にNo. 2→No. 5、No. 2→No. 6、No. 3→No. 5の順序が良いのか、それともNo. 2→No. 5、No. 3→No. 5、No. 2→No. 6の順序が良いのか、どちらが正しいですか。	この場合、下から順にNo. 2→No. 5、No. 2→No. 6、No. 3→No. 5とオフセット野帳に記載してください。
2	103	第2次作業において、例えばK点が無. 1～No. 3上のNo. 1側にある時、オフセット野帳への記載の仕方は、下からNo. 3→Kと記載するか、それとも下からK→No. 3と記載するか、どちらが良いですか。	この場合、下からNo. 3→Kとオフセット野帳に記載してください。逆に記載（K→No. 3）した場合、記入誤りとなり <u>減点の対象となります</u> 。
2	104	全国大会実施基準C競技方法-(4)距離測量によるオフセット野帳の一例で対角線No. 2～No. 4の書き方で、No. 4を下段にし、No. 2を上段に記入しても減点となりませんか。	全国大会実施基準のとおりです。測点間の若い番号を下段に記入してください。
2	105	オフセット野帳について、" の記号は 〃 でも減点にはなりません。	全国大会実施基準のとおりです。「〃」で記入してください。
2	106	Kと検線の書き方はどのような書き方が正しいですか。 	文字と線が交差していなければ、全国大会実施基準の例や図A、Bのいずれの書き方でもかまいません。
2	107	上記において、「検線」という文字の記載位置が求積区「い」内であるが、求積区「あ」内でも良いですか。	検線を示す線上に記載され、他の線や文字に干渉していなければ、記載位置は問いません。
2	108	次のような多角路線の場合、オフセット野帳の測量方向を示す記号はこれで良いですか。 	良いです。また、┐印は区分線の延長線上に記入してください。 測点が左回り：┐ 測点が右回り：┐
2	109	オフセット野帳を作成する際、「境界線」・「〃」の書き方は、どちらの書き方でも良いですか。 	図A、Bどちらの書き方でも良いです。

2	110	オフセット野帳の記入（区切り線）は、下図のどれが正しいですか。  図A 図B 図C	野帳上部は図A、B、Cのいずれでも良いですが、野帳下部は、図A、Bのいずれにしてください。
2	111	一点鎖線の点の書き方は — — ・ — — — 、 — — — — のどちらでも良いですか。	どちらでも良いです。
2	112	オフセット野帳の見取り図で一点鎖線が交わるときの書き方は、①が良いと思うが②では減点となりますか。  ① ②	どちらでも良いです。
2	113	第2次作業での30mを超える測距において、ポールを使用しないで測距用ピンだけの目視で中間点を設置しても良いですか。	必ずポールを用いて、中間点にポールまたは測距用ピンを立てて見通してください。測距用ピンをみの目視は <u>減点の対象となります</u> 。
2	114	第2次作業での測距において中間点を目視する際、目視する側の測点に立てるのは、測距用ピンが正しいですか、ポールが正しいですか。 	測距用ピン又はポールのどちらかでも良いですが、必ずどちらかを使ってください。
2	115	第2次作業における測距の際に、先に1測長（30m）以上の全ての測線上に測距用ピンを用いて中間点を設置し終えてから、計測しても良いですか。	良いです。ただし、作業途中で測距用ピンが倒れた場合は、もう一度見通し作業をして中間点を設置し直してください。
2	116	検線が1測長（30m）を超える場合、見通しを行う杭としてK点又は測点のどちらで行うのがふさわしいですか。	K点、測点のどちらでも良いです。
2	117	1測長（30m）を超える検線を測定する際に、K点側から測点側に向かって測距をしても減点の対象になりませんか。	減点の対象となりません。
2	118	1測長（30m）を超える測線で中間点を設けた際、巻尺0mの位置は、測点、中間点のどちらでも良いですか。	第2次作業においては、どちらでも良いです。
2	119	第2次作業において対角線測距における移動の際、巻尺を5m程度まで巻き取って、そのまま巻尺を伸ばしながら次の対角線へ移動しても良いですか。	5m程度まで巻き取った後は、巻尺を伸ばしながら次の対角線まで移動するのではなく、対角線測距の際には対角線上まで移動してから巻尺を伸ばし始めてください。
2	120	第2次作業の対角線の測距について、前手と後手が対角線の中央付近から巻尺をのびながら測点に移動しても減点にはなりませんか。	対角線上まで移動してからであれば、減点の対象としません。
2	121	第2次作業において検線まで測定した後に境界線や対角線に測定ミスがあるかと思い再測をした場合は減点ですか。また、時間が余った場合に確認のためにいくつかの測線を再測定した場合はどうでしょうか。	減点の対象としません。

2	3	122	求積区を示す記号「あ・い・う・・・」の指定はされますか。また、第2次作業と第3次作業では同じ区分にしなければなりませんか。	競技実施要領の(2)指示事項Ⅰに明記しましたが、求積区「あ・い・う・・・」の位置は指定しませんが、チーム内で統一させてください。
2	3	123	オフセット野帳及び仕上り図面に「単位(m)」を記載する代わりに、測定距離を示す全ての数字の後に「m」を付ければ減点になりませんか。	全国大会実施基準のとりの記載でなければ、 <u>減点の対象となります</u> 。
	3	124	「測量年月日」の区切りの記入の仕方は、どちらが正しいですか。 8 . 1 0 . 2 1 8 , 1 0 , 2 1 A B	Aが正しいです。また、西暦ではなく、和暦を使用してください。
	3	125	三斜法において、下図のように2人が向き合った状態で第3次作業を開始するのですか。それとも、机に横並びに座って開始するのですか。  図A 図B	図Aの状態第3次作業を開始します。作業途中は、お互いに移動して作業してもかまいません。終了時はもとの位置に戻った状態で、終了の合図をしてください。
	3	126	三斜法と三辺法の面積計算簿の「計」の欄において、記入不要なところに斜線は印刷してありますか。	印刷してあります。
	3	127	面積計算簿に「あ、い、う、え」等は記載されていますか。	記載されておりません。
	3	128	第3次作業において、図面を平板からはずして作業してもよろしいですか。また、はずす時間は作業時間外に確保されていますか。	良いです。図面をはずす場合は、作業開始前に行い、準備ができれば図面を裏返してください。
	3	129	図面を平板から外して作図した場合、作図終了後に再び平板に貼る必要がありますか。	再び平板に貼る必要はありません。
	3	130	第3次作業時に物を落とした場合は減点の対象となりますか。	<u>減点の対象となります</u> 。
	3	131	三斜法（aグループ）において、測定値を読む上げるために、声を出しても良いですか。	声はかまいませんが、声の大きさは、他のチームの妨げにならないようにしてください。
	3	132	三斜法（aグループ）の面積計算において、底辺は最長辺としなければいけませんか。	底辺は最長辺としてください。そうでなければ、 <u>減点の対象となります</u> 。
	3	133	第3次作業において、オフセット野帳を見ながら面積計算をする際に、オフセット野帳に転記しやすいように(a,b,c)を各辺に書いても良いですか。 	第3次作業時において、オフセット野帳の書き換え、書き足しは <u>減点の対象となります</u> 。
	3	134	三斜法で、高さを記入するスペースがほとんどない場合、引き出し線の標記の仕方はどのように書けば良いですか。  図A 図B	図Bのように紙に対して平行な線の上側に数値を記入してください。

	3	135	上記において図 B の (3.4 1) は、高さの線の傾きから距離の数字を右側ではなく左側に記入となるのではないですか。 右側 (3.41) 左側 (3.41) 	引出線の記入方法について、左側か右側かは問いません。
	3	136	図面仕上げにおいて、数値の書き方はどちらが正しいですか。  図 A 図 B	図 A が正しいです。数値は、北方向を上として見た時に上向き、且つ、線の上に書くことを原則とします。その際、数字を書く位置は、境界線の内外は問いません。
	3	137	図面仕上げにおいて、三角形の底辺または高さが垂直になった場合の数字の書き方を教えてください。	線が垂直な場合、数字は線の上に横書きを原則とします。線の左右の指定はしません。 
	3	138	面積計算において計算ミスをして、その後の計算へ影響した場合、どのように採点されますか。	計算ミスの箇所についてのみ<u>減点</u>とします。減点後の関連した計算は減点しません。ただし、さらに計算違いをした場合は、<u>減点の対象となります</u>。
	3	139	面積較差が選手の計算ミスにより制限を超えたが、審査員が正しく計算し直した値が制限内であったとき、どちらの値により審査が行われますか。	計算ミスのあった場合は、選手の計算した値（面積計算簿に記載されている値）と審査員が正しく計算を行った値とを比較し、較差の大きい方の値を用いて審査します。
	3	140	完成図面の図形が極端に端の方にあり、図郭線の余白が他の箇所に比べて狭くなる場合は減点対象となりますか。	全国大会実施基準D採点基準-3.図面2)仕上りの不良・・・「現状により審査」に該当します。著しい場合は<u>減点を行います</u>が、入賞判断の際の参考にします。

<雨天時>

1		141	雨天時の第 1 次作業において、作業開始時は図 A のように 2 人と 1 人が向き合った状態で開始するのですか。それとも、図 B のような状態ですか。また、作業開始後は移動しながら作業しても良いですか。  図 A 図 B	図 A の状態で第 1 次作業を開始します。作業途中は、お互いに移動して作業してもかまいませんが、終了の合図は元の位置に戻ってから行ってください。
1		142	雨天時の第 1 次作業において、境界線、対角線及び検線の距離測定について、座標計算をしても良いですか。	座標計算による距離の算出及び座標法による面積計算を禁止します。違反した場合は、 <u>減点の対象となります</u> 。
1	2	143	雨天時作業の際、オフセット野帳に不必要な記載をしても、終了合図前に消せば減点になりませんか。	終了合図前に筆跡が残らないように消せば、減点の対象なりません。
1	2	144	雨天時の図面において、座標位置を示す破線と底辺や高さの線が重なった場合の対処法を教えてください。また、これにより高さや底辺の値が書けない場合は Q&A134 のように記載すれば良いですか。	実線を優先して破線の上に引いてください。また、値が書けない場合は、Q&A134 のように記載してください。